救命救急センター

一般目標（ＧＩＯ）

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。救急医療システムを理解する。 災害医療の基本を理解する。

行動目標（ＳＢＯｓ）

1. 救急診療の基本的事項
   ① バイタルサインの把握ができる。
   ② 身体所見を迅速かつ的確にとれる。
   ③ 重症度と緊急度が判断できる。
   ④ 二次救命処置（ACLS）ができ、一次救命処置（BLS）を指導できる。
   ⑤ 頻度の高い救急疾患・外傷の初期治療ができる。
   ⑥ 専門医・コメディカルへの適切なコンサルテーションができる。
   ⑦ 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。
2. 救急診療に必要な検査
   ① 必要な検査（検体、画像、心電図）が指示でき、所見を述べることができる。
   ② 緊急性の高い異常検査所見を指摘できる。
3. 経験すべき手技
   ① 気道確保を実施できる。
   ② 人工呼吸を実施できる。(バッグマスクによる徒手換気を含む。)
   ③ 心マッサージを実施できる。
   ④ 圧迫止血法を実施できる。
   ⑤ 包帯法を実施できる。
   ⑥ 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。
   ⑦ 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
   ⑧ 穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）を実施できる。
   ⑨ 導尿法を実施できる。
   ⑩ ドレーン・チューブ類の管理ができる。
   11 胃管の挿入と管理ができる。
   12 局所麻酔法を実施できる。
   13 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
   14 簡単な切開・排膿を実施できる。
   15 皮膚縫合法を実施できる。
   16 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
   17 気管挿管を実施できる。
   18 除細動を実施できる。
   19 緊急薬剤（心血管作動薬、抗不整脈薬、抗けいれん薬など）が使用できる。
   20 緊急輸血が実施できる。
4. 経験すべき症候・疾病・病態
   ① ショック
   ② 発疹
   ③ 黄疸

④　発熱
⑤　頭痛
⑥　めまい
⑦　意識障害
⑧　失神
⑨　けいれん発作
⑩　視力障碍
11　胸痛
12　心停止
13　呼吸困難
14　吐血
15　喀血
16　下血
17　血便
18　嘔気・嘔吐
19　腹痛
20　便通異常
21　熱傷・外傷
22　腰・背部痛
23　運動麻痺
24　筋力低下
25　排尿障害
26　興奮
27　せん妄
28　終末期の症候
29　脳血管障害
30　急性冠症候群
31　心不全
32　大動脈瘤
33　肺炎
34　急性上気道炎
35　気管支喘息
36　ＣＯＰＤ
37　急性胃腸炎
38　消化性潰瘍
39　肝炎
40　肝硬変
41　胆石症
42　腎盂腎炎
43　尿路結石
44　腎不全
45　糖尿病

5. 救急医療システム
   ① 救急医療体制を説明できる。
   ② 地域のメディカルコントロール体制を把握している。
6. 災害時医療
   ① トリアージの概念を説明できる
   ② 災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握している。

方略（ＬＳ）

1. オリエンテーション
   ① 目標・スケジュールの確認を行う。
   ② 病棟等関係部署で自己紹介を行う。
2. 外来研修
3. 病棟研修
   病棟での研修はないが、適宜 ICU で各科指導医のもと重症患者の管理を行なう
4. 院内における防災訓練・集団災害訓練、地域の訓練への参加。

評価（Ｅｖ）

評価は、1-2 か月毎に研修医と指導医で行う。

SBOｓ	評価者	評価方法
1. 救急診療の基本的事項	自己 指導医	観察記録
2. 救急診療に必要な検査		
3. 経験すべき手技		
4. 経験すべき症候・疾病・病態		
5. 救急医療システム		
6. 災害時医療		